

## いばらき農業アカデミー『ナシの早期成園化技術の検討』の開催

平成30年7月12日（木）、園芸研究所において‘ナシの早期成園化技術の検討～梨の園地若返りのための早期成園化技術を農家に伝えます～’と題し、いばらき農業アカデミーを開催しました。茨城県梨組合連合会（夏季研修会）との共催で、当日は生産者34名、普及・行政等関係機関21名の計55名の出席がありました。現在取り組んでいるナシの枯死樹等跡地への補植技術と樹体ジョイント仕立てに関する栽培技術の研究課題について、これまでの成果を踏まえた試験の進捗状況を紹介し、ほ場および室内検討・意見交換を行いました。

### ○枯死樹跡地等への補植技術の開発について

現在、研究課題として取り組んでいる補植（スポット改植）技術の開発として、定植前土壌への高温水処理と根底制限栽培、また、新たな仕立て方法として1株3樹植えについて、現在の生育および結実状況を紹介しました。高温水処理と根底制限については、幼木の生育促進効果を、新たな仕立て方法については、早期樹冠拡大効果を中心に紹介、検討を行いました。

### ○樹体ジョイント仕立てについて

「恵水」の樹体ジョイント仕立てによる早期成園化技術について、定植6年目・結実3年目の結実生育状況を紹介し、これまでの成果を踏まえ、初期収量や樹冠占有面積について慣行仕立てとの比較等検討を行いました。研究結果として、面的改植における樹体ジョイント仕立ては「恵水」の早期成園化に高い効果があることを示すことができました。

### ○総合検討・意見交換

筑西や石岡など各産地の改植の取り組みについて情報が寄せられ、高齢化や後継者不足から大きくは進んでいないがジョイント栽培の導入や高温水処理の実施など事例紹介がありました。特に温水処理機を導入した産地（石岡市八郷地区）が見られるなど、各産地においては改植にあたって温水処理技術に関心が高いことが伺えました。今後の課題として、改植後の生育促進や白紋羽病跡地対策に関して、より簡単で効果的な改植方法を望む声が寄せられました。

### ○アンケート結果

今回の農業アカデミーに対する満足アンケート結果では、内容について十分満足、概ね満足が全体の90%でした。最も高い関心が寄せられた内容は、温水処理・根底制限栽培による生育促進技術でした。

検討会での要望等を踏まえ、次年度から難改植ほ場（白紋羽病跡地、いや地現象等）における改植技術の開発に取り組む計画です。



ほ場検討



総合検討・意見交換